

令和2年度 第1回大阪府立狭山池博物館運営審議会 議事要旨

日 時： 令和2年10月15日（木）14：00～16：00

場 所： 大阪府立狭山池博物館

出席者： 委 員） 磐下委員・岡田委員（Web 参加）・木原委員・金田委員・
小山田委員・佐伯委員（Web 参加）・向山委員（会長）・森委員
計8名（欠席者：中川委員）

まとめ

大阪府立狭山池博物館の効果的・効率的な運営について

- ・中間答申に基づく取組みを評価するための成果指標の項目や考え方について基本的に了承
- ・コロナ禍での影響や開館20周年記念イベントでの検証結果を踏まえて、次回数値を含め指標を提示する

概 要

（資料に基づき、事務局より説明）

主な意見

【目指すべき姿と取組み方針（案）について】

- ・3本の柱にある「土木事業・土木技術の歴史」とそれに紐づく取組み方針の内容が明確でない。
→（事務局）再度検討する。
- ・3本の柱に紐づいている取組みが独立的に行われるよりもそれぞれが相乗効果生み出すような形で、これから実施されるイベントを取組むとよい。

【成果指標について】

- ・来館者数という量的な指標のほか、HP や SNS のアクセス数も活用するなど、コロナ禍においてどのように最終的な指標の設定を行っていくか慎重に検討する必要がある。
→（事務局）指標に関して、コロナによる影響が大きいため、来館者数のほか HP や SNS へのアクセス数の数値の活用の仕方も含めて、引き続き検討していきたいと考えている。
- ・博物館におけるイベントの様子等をオンラインで発信した際にどの程度アクセスしていただけるか、コメントをいただけるか、今後はコロナ禍の有無は関係なく評価できることが大事である。
- ・博物館としてどの程度満足度を達成できたのかという自己評価も指標に加える必要がある。
→（事務局）自己評価について、設定する指標への反映はもちろんであるが、それ以上に継続的なマネジメントの中で、取り組んだものがどうであったかを評価し、今後につなげていきたいと考えている。
- ・地域魅力創造におけるイベントの満足度において、どの程度のコミュニティと連携することができたかという活動も指標に入れることで、より明確な目標ができる。
→（事務局）各取組みの細部チェックを行うにあたり、「イベントの連携団体数」も指標としていきたい。
- ・指標についてはマネジメントに生かすということであると思うが、HP 等に掲載するなど外部から見えるような形にする必要もあり、また一般の方以外からの視点も意識した指標が必要になるのではないかと。
→（事務局）指標に基づく評価結果は、府民に対して HP 等で公表していきたいと考えている。また、個々の評価項目も設定し、その結果をPDCAにより運営に反映することを考えている。

【満足度アンケートについて】

- ・狭山池に関する歴史の知識を取得できたかどうかなど、博物館のコンセプトが来館者に伝わっているかどうか確認できるような工夫がされているアンケートであれば良い。

- (事務局) 3本柱に関する評価について、数値では測れない部分もあり、今あるアンケートの5段階評価だけではなくほかのやり方も踏まえて考えていく必要があると考えている。
- 基本的な個人属性(年齢、地域別など)のほかイベントの内容に応じた設問や自由記述を設け、質的な視点で整理しながら今後どうしていくか分析を行う必要がある。
- (事務局) 博物館においてもアンケート調査を実施しており、同様に個人属性を問う項目を用意しているが、基本的な個人属性以外の詳細な分析は実施できていないため、今後進めていきたいと考えている。

【その他】

- 既存のデータを活用し、アクセス数だけでなく来館者の属性や個人的な属性に踏み込むことで、今後より来館者数が伸びていくのではないかと考えている。
- (事務局) TwitterやInstagramも開設しているため、アンケート調査だけでなくSNS等も通じて意見をいただきながら、今後の活動のためのデータ分析は必要であると考えている。
- 「河内平野の水風景」のチラシにおいて狭山池や水辺に関わった120ほどのコミュニティが囲んだ図が紹介されているが、これらコミュニティが狭山池の応援団になるのではないかと考えている。
- 先になるが、大阪万博に合わせてイベントを実施するのか。また、大阪府内だけではなくその他への広報の仕方などは考えているのか。
- (事務局) 大阪万博に向けて特別何か実施するということは現時点では考えていない。広報についても現時点では考えていないため、今後検討していきたい。
- サービス向上委員会において、オンラインガイドツアーの実施という意見もあり、海外や日本国内でも狭山池から遠いところにいる方にも博物館の館内を見ただき、実際に来ていただけるような手配ができれば良い。
- (事務局) 現在、三者協働運営委員会として運営を行っているところであるが、20周年記念事業及び通常のイベントにおいてもボランティアのご協力が必要不可欠であり、今後もしっかりと連携・協議しながらやっていきたいと考えている。